

3. 緑地共生体のつくりだす暮らし



水の恵み
海に囲まれた日本にとって、水は脅威になり得る。しかし、同時に水は命の糧でもある。水との付き合い方を学び、語り継ぐことによって水の恵みを受けた豊かな生活を実現する。

石巻最大のイベント
毎年行われていた川開きは、市内外から多くの人々が訪れる重要な行事の一つである。今後その位置づけが変わることはない。復興においては、震災において途切れてしまった地域の絆を再びつなぐ役割を果たし得る。

震災被害にあった鳥居の再建築
人々の記憶となる神社。津波の被害から逃れたこの場所は途切れさせた石巻の記憶を繋ぐ役割を担う象徴となる。堤防を作ることで新しいものに更新するが一方で、地域のシンボルを残し整備し新旧共存した計画とする。

昔の漁業風景の再現
漁港において昔の石巻の漁業を再現する体験型イベントを開催する。昔ながらの風景を保存することができることも、地元の住民と漁師との交流を深めることができる。若者が漁業に興味を持つきっかけにもつながる。

石巻文化センターの利用
郷土の歴史や文化的遺産を次の世代に残すため、緊急避難所の上層に石巻文化センターの機能を移転させる。ここで働く人は、語り部として石巻の良さや魅力を伝えていく。

自然を継承するシンボル
快適な生活は必要である。しかし、持続可能性のある生活レベルを維持するためには、快適さを求めすぎないライフスタイルでは限界に到達する。ここにある風車は、次の世代に自然を残す、というシンボルをつくるため設置した。

港町の風景
漁港の風景は港町だからこそ見る事ができる。海風とともにやってくるかすかな潮の香りや漁師の声は、ここにいるからこそ感じるここの独特の「風景」である。

緑の恵み
豊かな自然に恵まれた土地は貴重である。自然との上手な付き合い方を学び、持続可能な開発を進め、安全で快適な居住空間の創出を行っていく。

